

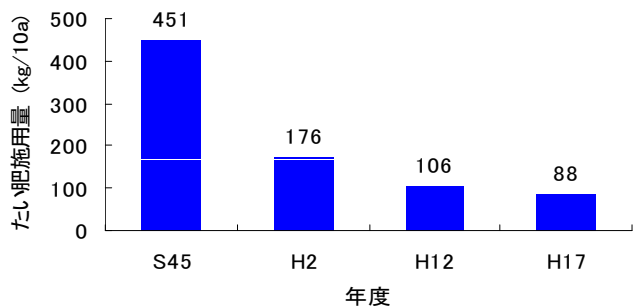
土づくり対策事業

土壌はバイオマス生産の基礎であるとともに、養水分の貯蔵・変換、種・遺伝資源などの生物多様性の保全等の機能を有しており、食料供給力を向上させ、また農業経営を安定させるためには、土壌の状態(物理性、化学性、生物性)の正しい把握と耕うん、施肥、堆きゅう肥の施用等土づくりを行うことによって、地力(土壌の性質に由来する農地の生産力)を維持増進していくことが重要である。

〈現状と課題〉

○ 土づくりは年々減退

水田におけるたい肥施用量の推移



○ たい肥の利用促進は「高品質」「価格」「自家製造の労力解消」がポイント

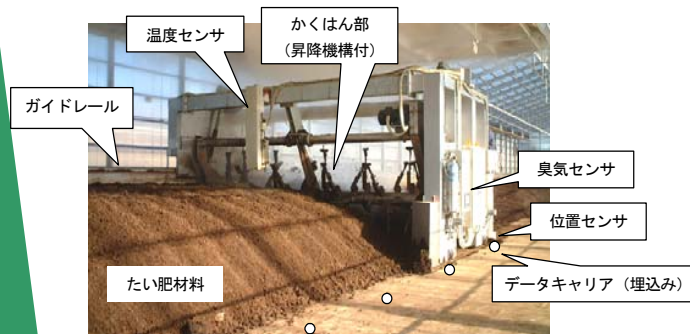
・農家がたい肥を購入するようになった理由

理由	回答割合
①たい肥の品質がよい	37%
②たい肥の価格が安い	26%
③自力でたい肥を作るのは大変	22%
④その他	15%
計	100%

資料:(財)日本土壌協会(18年3月)

〈具体的な取組〉

たい肥原料の位置、温度、臭気等の情報に基づいて、攪拌が必要な部位のみを自動的に攪拌する「品質管理型たい肥自動混合・攪拌装置」を導入



太陽光発電による電力を利用して、たい肥原料のたい積の高さごとの温度等に基づいて通気を抑制する「自然エネルギー活用型高品質たい肥化装置」を導入



高品質で低コストなたい肥の安定供給体制を
確立するための支援

土づくりの推進による地力の維持増進